



# 2023

2022.7.1~2023.6.30

## 環境報告書

ENVIRONMENTAL REPORT



# 地球環境を守るために、永く使えるモノづくりを基本として、社会が望む「便利」「楽しさ」「安心・安全」を世界へお届けします。

1925年(大正14年)。創業時に発売した「万年スタンプ台」から始まったシャチハタの歴史。補充インキを使用することで、未永く使える「万年スタンプ台」は、それまでのスタンプ台と一線を画し、多くの人に受け入れられました。現在もその姿勢は受け継がれ、永く使えるモノづくりはシャチハタの基本となっています。そして今、環境の時代。常識にとらわれない発想と柔軟なアイデアで、従来の想像を超えたニーズを創造し、究極の「便利」「楽しさ」「安心・安全」を世界のお客様に届けられるよう、シャチハタは歩みを進めています。

## CONTENTS

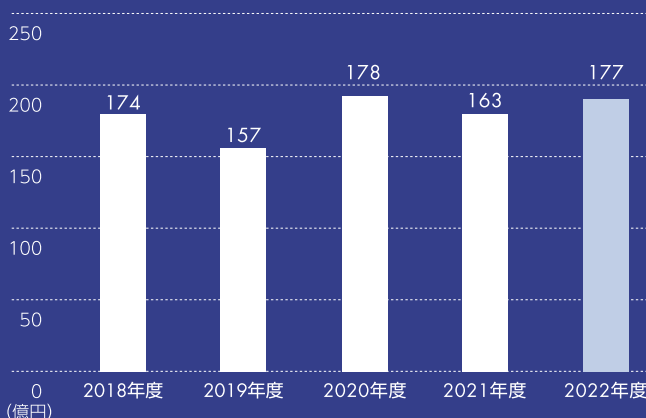
シャチハタ環境報告書2023 (2022.7.1~2023.6.30)

シャチハタ エコ・アクション	02	サーキュラーエコノミー	11
トップメッセージ	03	ネイチャーポジティブ	13
環境マネジメントシステム	05	環境影響物質の管理	15
研究開発	07	調達・物流	17
カーボンニュートラル	09	環境コミュニケーション	18

### 会社概要

社名	シャチハタ株式会社
本社	〒451-0021 名古屋市西区天塚4-69
電話番号	052-521-3635(代)
設立	1941年(昭和16年)9月
創業	1925年(大正14年)1月
代表者	代表取締役社長 舟橋 正剛
資本金	1億円
従業員数	734名(2023年6月現在)

### 売上高の推移

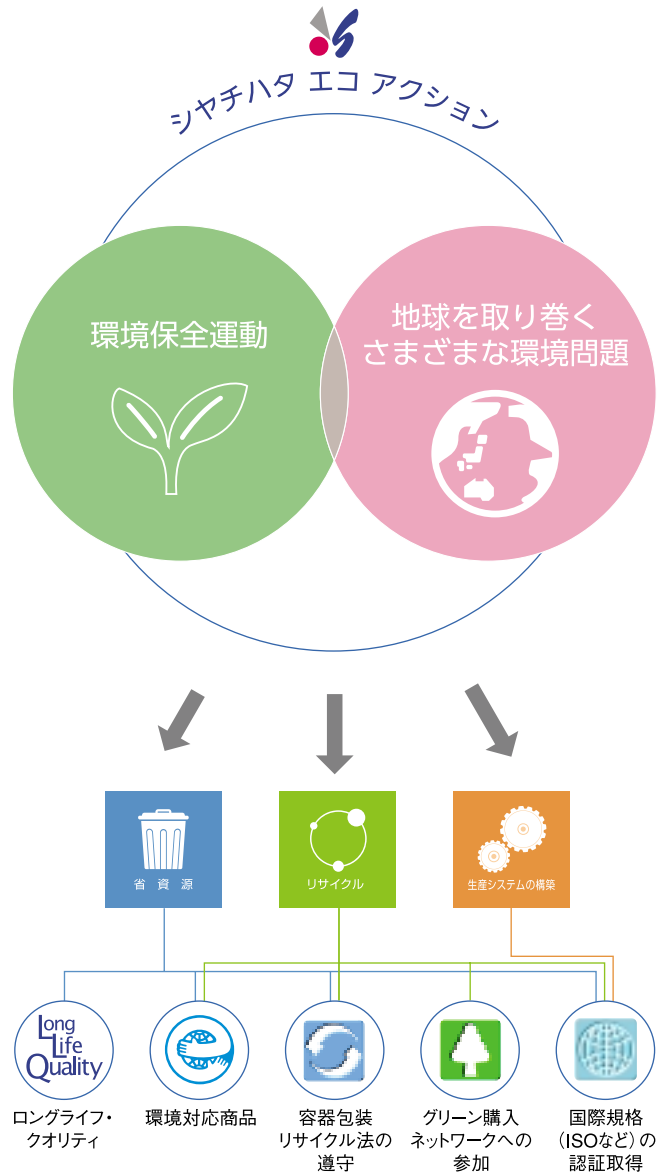


地球環境との共存・調和は、私たち地球で活動する企業にとって、真剣に取り組むべき重要な課題です。「省資源のために」「リサイクルを進めるために」「クリーンな生産システムを実現するために」私たちが取り組むエコ・アクションは、どこまでも進行形で続いています。

シヤチハタ「環境報告書」は、シヤチハタグループの環境活動をステークホルダーの皆様へ報告し、ご意見をいただくことで活動と開示の充実を図るコミュニケーションツールとして発行しています。今回は主に以下の試みを行いました。

- 環境報告ガイドライン2018年版に沿った内容とし、最新の情報開示のために、既存のWebサイトでの網羅的な情報開示
- 気候変動問題を極めて重要な経営課題と捉え、CO<sub>2</sub>排出削減を含むシヤチハタグループの重要課題を特定し、それらへの取り組みを記載。また、取り組み内容のSDGsとの関連を記載
- 重要課題に対する経年的な取り組み結果の開示及び環境問題に対する社内体制の開示

シヤチハタグループは、上流から下流まで世界中にバリューチェーンが広がるグループの事業において、**①当社グループが解決に向けて貢献すべき社会課題、②当社グループが事業運営において対処すべきリスクと機会を的確に捉え、それらに着実に対応しています。**私たちは今後もバリューチェーンの隅々にわたって対応を充実させていくことで、グループ全体の持続可能性を確保していきます。



## 編集方針

本報告書はシヤチハタにおける持続可能な社会をめざす取り組みについて、誠実に、かつ出来るだけ分かりやすく報告することを目的に発行しています。本報告書及びシヤチハタの取り組みに対する皆様の声を聞かせていただきたいと思います。ご一読の上、ぜひ、ご意見・ご感想をお寄せください。

## 参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

- 対象範囲  
シヤチハタ株式会社、シヤチハタテクノ株式会社  
シヤチハタビジネスアンドカスタマーサポート株式会社
- 対象期間  
2022年度（2022年7月1日～2023年6月30日）
- 発行日  
2023年12月
- 前回発行日  
2022年12月（「シヤチハタ環境報告書2022」）
- 次回発行予定  
2024年12月予定

# ユーザーの想いに応える 「しるしの価値」を提供し 新たな市場を創る

代表取締役社長 舟橋 正剛  
Masayoshi Funahashi



シヤチハタは創業当初からモノを大切に、環境に配慮したモノづくりに取り組んで参りました。

1925年(大正14年)の創業時に発売した「万年スタンプ台」は、長期間の使用を可能にするため、空気中の水分を吸収するインキを開発して作られました。また朱肉やXスタンパーも、インキを補充することで長期間繰り返しお使いいただける製品です。「使い捨てではないモノづくり」の精神は、今も全ての製品において受け継がれております。

2023年5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付けられ、人々の活動や企業活動は正常に戻りつつあります。しかし世界的なエネルギー・食料価格の高騰、世界経済減速の影響など、我々の企業活動においては依然として課題が多い状況にあります。一方、地球規模では、気候変動による海水面の上昇や異常気象の発生、陸上や海中資源の枯渇、森林破壊、水の汚染・枯渇、生態系の変化などの問題が深刻化しています。かけがえのない地球、将来の人々のために、気候変動への取組は国際社会の喫緊の課題であり、企業活動との両立が必要です。

我が国では2021年の気候変動サミットにて「2030年度までに温室効果ガスを2013年度比で46%削減

減」するカーボンニュートラルに向けた中間目標が表明されました。当社および関係会社でも、工場での太陽光発電の導入、再生可能エネルギーへの切替えなど、さまざまな「脱炭素」への施策を進めているところです。また製品のライフサイクル視点でのCO<sub>2</sub>削減を目的としてバイオマスプラスチック材料の導入も進めております。

さらに環境負荷への対応として、廃棄物・水資源・化学物質の排出(PRTR対象物質)の削減を推進しております。また化学物質を取り扱うインキメーカーとして、法令や基準を守り、ステークホルダーの皆さまへの環境・安全を配慮した活動を今後も行ってまいります。これからも循環型社会の一員として、SDGs・社会貢献に向け、一層の努力をしてまいります。

商品の提供による社会への貢献と、環境への配慮による貢献。この2つを両輪とし、今後もシヤチハタは地球環境のために最善を尽くす循環パートナーとして長く続く関係構築をし、100年企業を目指して歩みを進めて参りますので、ご支援のほどお願い申し上げます。

シヤチハタは、社会課題を把握したうえで事業が社会に与える影響を評価し、「ステークホルダーの関心・影響」と、「シヤチハタにとっての重要性」の両面から重要な課題(マテリアリティ)を特定。それを環境の重点テーマとして整理し、戦略経営計画に反映しました。それぞれのテーマで目標を設定し取り組んでいます。

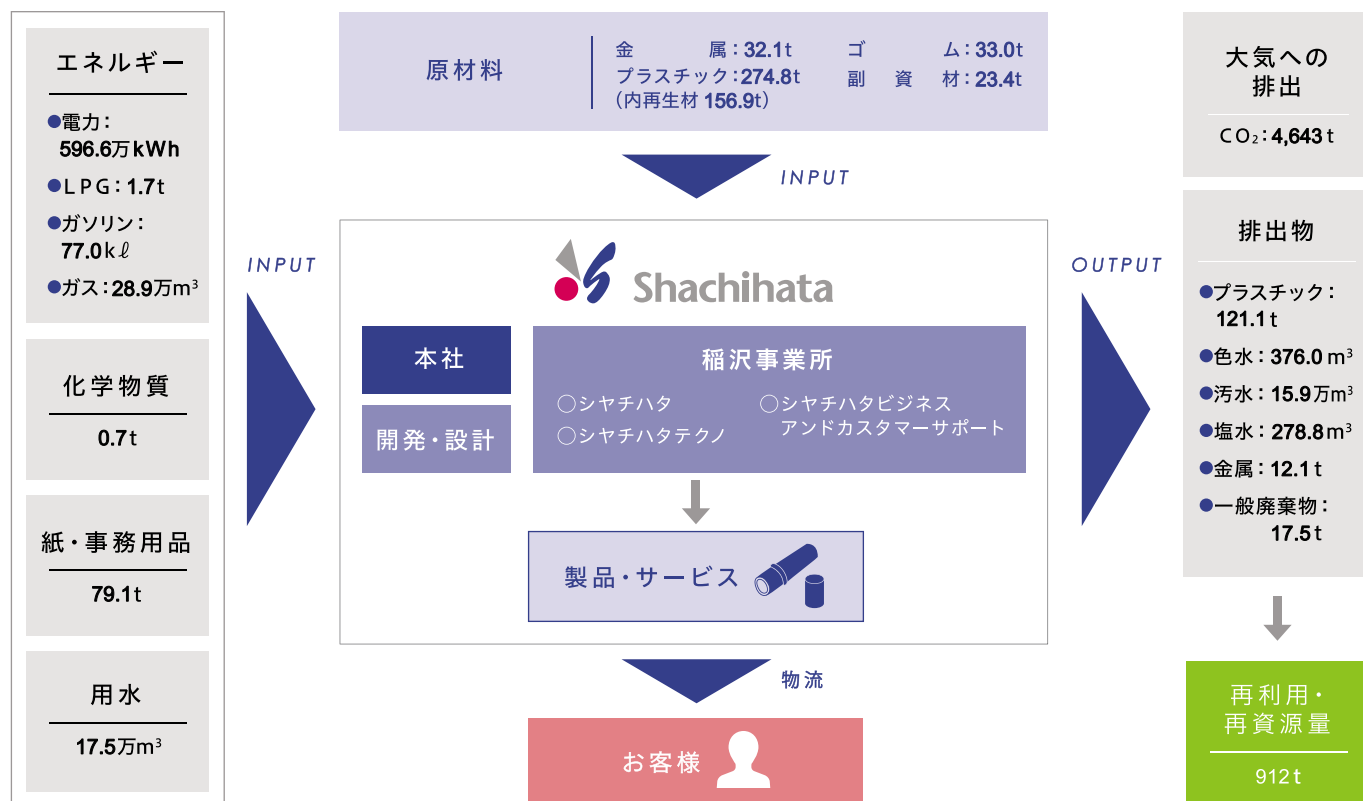
### 5つの環境重要課題

- 重要課題 01 | 地球環境問題を企業の社会的責務と認識し、低炭素社会づくりを目指す。
- 重要課題 02 | 環境に優しい負荷低減型の商品・サービスを提供することによって環境保全に貢献する。
- 重要課題 03 | 地球環境にとって最良の方法を追求し、ゼロエミッションを目指す。
- 重要課題 04 | 化学物質管理などを通じて環境と共生する。
- 重要課題 05 | お客様、サプライチェーン、社員から信頼される企業活動を展開する。

### 環境活動のハイライト

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	
CO <sub>2</sub> 排出量 (t)	4,584	5,019	4,867	4,651	4,643	
廃棄物総排出量 (t)	1,032	1,121	939	951	1,015	
廃棄物最終処分量 (t)	18	17	18	149	103	
廃棄物総リサイクル率 (一般廃棄物を含む) (%)	98	98	98	84	90	
再生材利用率	原材料プラスチック (%)	50	52	60	40	57
	洗浄用アルコール (%)	100	100	100	100	100
環境対応商品売上比率 (%)	59	56	38	44	40	
P R T R法対象 化学物質年間取扱量 (t)	エチレングリコールモノメチルエーテル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	エチレングリコールモノエチルエーテル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	キシレン	0.294	0,274	0.290	0.381	0.280

### 2022年度 シヤチハタのマテリアルバランス (INPUT・OUTPUT図)



集計範囲: 本社・稲沢事業所・各営業拠点・物流センター

# 環境との共存・調和を実現するために、 全社をあげて環境保全活動に取り組んでいます。

## 背景と経緯

シヤチハタでは、創業以来、永く使い続けることができる高品質の商品をお届けしてきました。インキを補充することで繰り返し使える「ロングライフ・クオリティ」の考え方は、省資源にもつながります。このような商品の品質を世界的な規格で管理するため、1993年に、当時の天塚工場において品質保証の国際規格「ISO9002」を取得。その後、生産本部・開発事業・シヤチハタマレーシアに拡大し、現在では「ISO9001」の認証を取得しています。また、稲沢工場（生産本部）では、2000年に環境マネジメント規格「ISO14001」の認証を取得。地球社会の一員として、社員一人ひとりが環境保全活動に取り組んでいます。

## 環境方針

### 環境憲章

シヤチハタはコミュニケーション文化創造企業として、地球環境問題を「企業の社会的責務」と認識し、低炭素社会づくりを目指します。また、企業活動と環境との共存・調和を基本理念に掲げ、「環境に優しい負荷低減型」の商品・サービスを提供することによって環境保全に貢献します。

### 行動指針

- 1 環境とヒトに優しい生活文化製品を創造し、製造していく過程において、地球環境にとって最良の方法を追求します。
- 2 環境活動を経営上の重要課題と認識し、全社員が真剣に取り組み推進していきます。
- 3 環境関連法令およびその他要求事項を遵守することはもとより、積極的に自主管理基準を定め、環境汚染の予防に努めます。
- 4 目的・目標を定め、環境管理を行うと共に、環境監査などを通じた定期見直しにより、環境保全の維持及び継続的改善を行います。
- 5 この環境方針は、全社員に対し理解と意識の高揚のため、周知徹底することはもちろん、広く一般に公開いたします。

代表取締役社長 舟橋 正剛

## 企業理念

### 社会が望む「便利」「楽しさ」「安心・安全」を世界へ

シヤチハタの使命は、いつの時代でも「便利」「楽しさ」「安心・安全」という価値を社会に提供し続けることです。これまではメーカーとして最高品質の商品を企画開発・生産し、文具印章流通を通して価値を届けてきました。これからは、よりユーザーに寄り添った活動を行い、社会が望む商品とサービスを自信と確信をもって、世界へ提供していきます。

### 感謝

私たちは、すべての人々に支えられていることを忘れず、常に感謝の気持ちを行動で表します。

### ユーザー視点

私たちは、常にユーザーの信頼と期待に応えるため、ユーザー視点にたった行動を大切にします。

### 挑戦

私たちは、失敗を恐れず果敢に挑戦し、そのプロセスや結果から学び、次に活かします。

### 主体性

私たちは、自らの考えと決断に基づく行動を大切にします。

### 多様性

私たちは、お互いの価値観の違いを認め、尊重する気持ちを大切にします。

## 環境マネジメントシステム体系

- 全社：本社をはじめ、工場・営業拠点などが連携し、環境保全活動に取り組む。
- 稲沢事業所（生産本部）：2000年9月にISO14001認証取得。



稲沢工場全景

### 工場概要

所在地 〒492-8102 稲沢市子生和神明町37  
TEL 0587-24-5805 FAX 0587-24-1030  
敷地面積 16,400m<sup>2</sup>  
延床面積 13,900m<sup>2</sup>  
従業員数 357名（2023年3月現在）

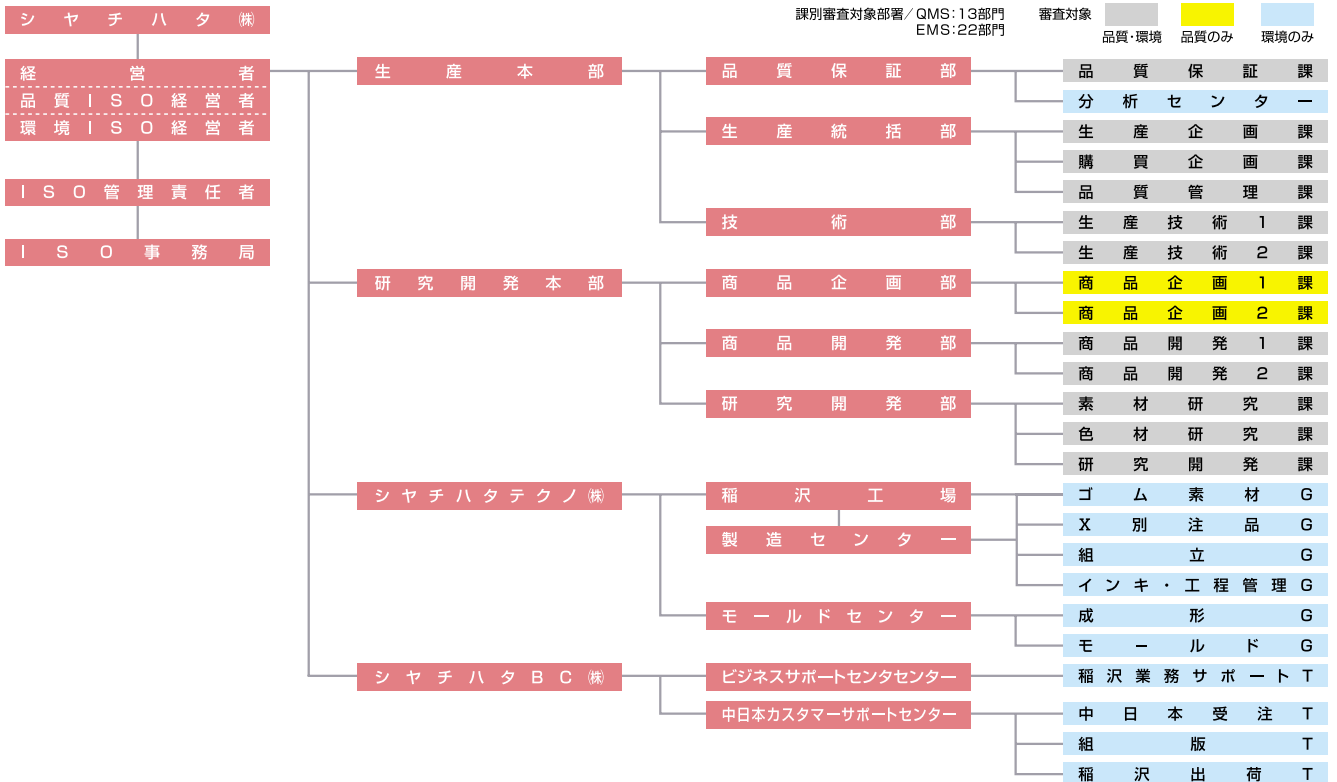
## 環境マネジメント推進体制

シヤチハタグループは、環境経営者を議長とする「環境運営委員会」を設置し、環境目標の設定、達成状況のチェック、グループ全体の環境パフォーマンスの向上、その他環境に関する諸問題の解決に取り組んでいます。

特に気候変動問題など、経営にとって重要な課題については、取締役会への報告を行っています。取締役会は報告を受けた環境課題について議論することを通じ、監督しています。また、それぞれの

事業会社・グループ会社でも専門委員会を設置し、企業単位の活動を進めています。

ISO9001・ISO14001マネジメントシステム 組織図 (2023年7月現在)



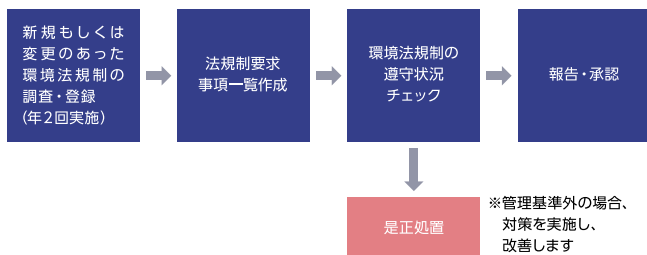
## 環境監査

内部環境監査では、事務局の指示のもと年1回の内部環境監査を実施しています。マネジメントシステムの有効性や法令遵守状況の確認、マネジメントプログラムの進行等を確認し、是正処置を講じるなど、継続的に改善しています。また、外部環境審査では、年1回の第3社審査機関によるISO14001認証維持審査を受け、「ISO14001の要求事項に引き続き適合し、運用され、継続的に改善が図られている」との評価を得ています。

法令遵守、財務報告・情報開示などに関するリスクや近年企業のリスクマネジメント上重要となってきた気候変動などのESGリスクの管理についても、担当執行役員などがリスクの認識に努め、必要に応じ適切な会議体において確認・評価し、その対処方針を審議・決定しています。取締役会は、シヤチハタグループのESGリスクに関して、その重要事項について報告を受け議論することを通じ、監督しています。

## 法規制対応

### 環境法令監視システム



上記のように環境法令監視システムを設け、是正点があった場合は、速やかに対処できる体制を取っています。2022年度は、環境関連の法令などの違反および事故、訴訟はありませんでした。シヤチハタが「内部統制体制構築の基本方針」に基づきグループの包括的なリスク管理を担っています。シヤチハタの環境経営者が議長を務める「環境運営会議」を通じて情報の集約と管理の強化を行い、リスクの発生頻度や影響の低減を図っています。事業活動、倫理

## リスクマネジメント

リスクマネジメントの推進にあたっては、管理責任者がリスクマネジメント推進責任者として当社グループ全体のリスクマネジメントを統括し、緊急事態発生模擬訓練計画策定・実行の年次サイクルに合わせたリスクマネジメント体制の運営を行っています。各部門においては部門の責任者が組織の目的・目標の達成に向け、個別リスクにかかわる分析・評価、年次対応計画の策定・遂行、組織内でのリスクマネジメントにかかわる情報提供・啓発など自律的にリスクマネジメントを推進しています。

ISO14001に基づく「緊急事態」訓練はもちろん、色水排水地下タンクからの汚泥排出防止や廃油処理の改善、塩酸タンク上部からのガス流出防止の強化などを実施しています。

## 環境教育

ISO14001の認証と維持について年1回の新入社員教育の他、全体教育として、新入社員研修・マネジメントプログラム教育・緊急事態教育や、環境業務運用設備・工程に関する部署単位教育などを行っています。さらに、毒劇薬・危険物の取り扱いなど、環境全体勉強会を随時開講し、社員一人ひとりの環境意識を高めています。また、社内有資格者として、内部環境監査員／環境設備取扱者教育を行っています。

# 環境に配慮した、ロングライフで 高品質の商品開発を進めています。

創業以来の「使い捨てでない製品づくり」。すべての製品においてこの精神を受け継いだ製品開発を進めています。

また、高品質で耐久性の高い製品づくりに努めるのはもちろん、環境対応商品をはじめ、素材の安全性やリサイクル性など、さまざまな視点から、より環境にやさしい製品を生み出す努力を重ねています。

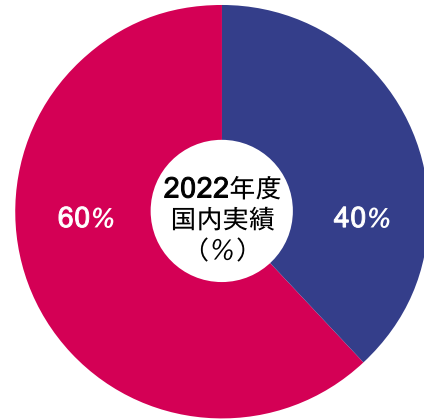




## 環境との調和を考えた高い品質

品質の高さはもちろんのこと、リサイクル樹脂や非塩ビ素材といった環境への負荷が少ない素材を使うなど、環境との調和を盛り込んだ商品開発にも積極的に取り組んでいます。スタンプ台や朱肉・筆記用具など、多くの環境対応商品がエコマーク商品に認定されています。

## 環境対応商品<sup>\*1</sup> 売上比率



■ 環境対応商品 ■ 環境対応商品以外

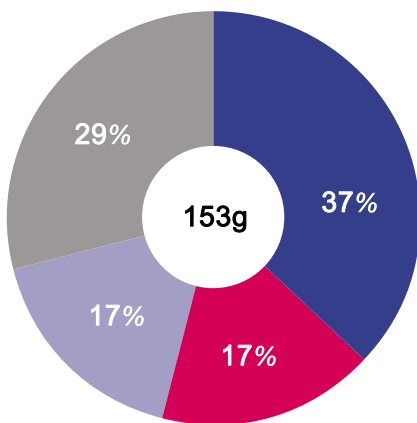
※1 環境対応商品とはシャチハタ独自の判断基準を満たした製品です。

## ライフサイクルアセスメントによる環境負荷の着実な低減

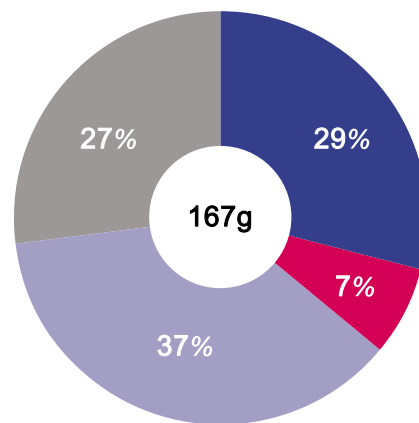
文具の原材料調達、生産、流通、使用、廃棄までのすべてのプロセスを通じ、総合的な環境影響を評価するのがライフサイクルアセスメント(LCA)です。すべての段階で環境への影響を評価するLCAを実施しています。筆記具の乾きまペンは従来品(油性マーカー丸3/角5)に比べ、ライフサイクル全体で約15%以上のCO<sub>2</sub>排出量を削減しています。



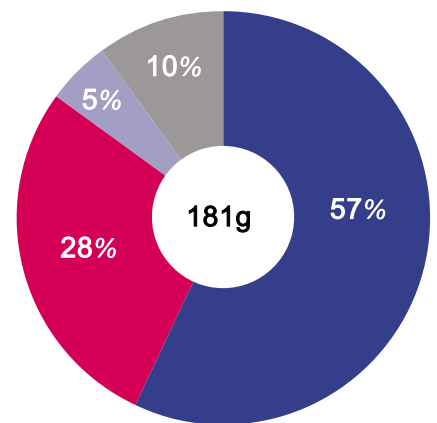
## 製品ごとのCO<sub>2</sub>排出量比較 (従来データ)



乾きまペン(マレーシア生産)



乾きまペン(日本生産)



油性マーカー丸3/角5

■ 原材料調達段階 ■ 生産段階 ■ 流通段階 ■ 廃棄リサイクル段階



# 地球温暖化を防ぐため、 シヤチハタにできることから始めます。

シヤチハタは、事業活動にともなう温室効果ガスの排出量を削減するために、生産事業所におけるエネルギー利用効率の向上や再生可能エネルギーの導入、オフィス拠点での省エネルギー機器の導入や節電対応、物流効率の向上など、グループ全体で取り組みを進めています。さらに、サプライチェーン全体を視野に入れ、地球温暖化防止に向けた効率的な対策の推進に努めていきます。

## グループ会社全体での温室効果ガス排出量

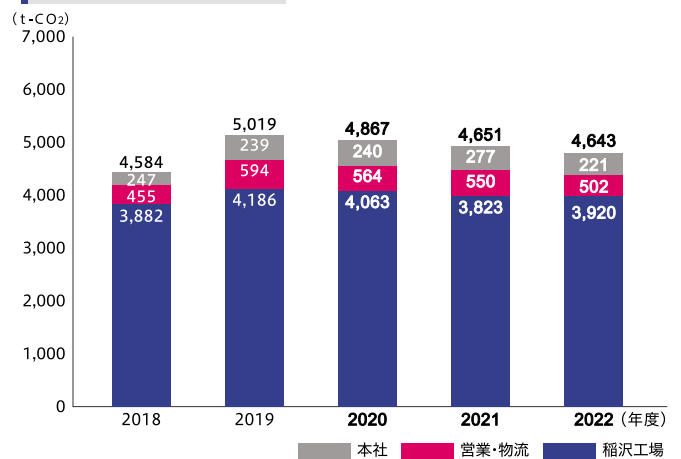
当社は「低炭素社会の実現」に向けて、グループ会社全体の温室効果ガス排出量を把握することの重要性を認識し、2000年よりグループ会社全体の温室効果ガス排出量を算定しています。

今後、温室効果ガス排出量が多い「材料調達段階」の排出量削減に寄与する製品の普及およびさらなる開発を推進し、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいきます。

## CO<sub>2</sub>排出量

シヤチハタ全社の2022年度のCO<sub>2</sub>排出量は4,643tで、2021年度の4,651tから8t減少となりました。これは2022年度の本社および営業・物流における排出量減少に伴うものです。今後も生産工場の消費電力削減に向け、より一層取組みを進めていきます。また、省エネ法の対応として、生産拠点以外の本社や他の営業拠点及び間接部門においてもCO<sub>2</sub>排出量を把握し、省エネ活動による排出削減を継続していきます。

CO<sub>2</sub>排出量の推移（全社）

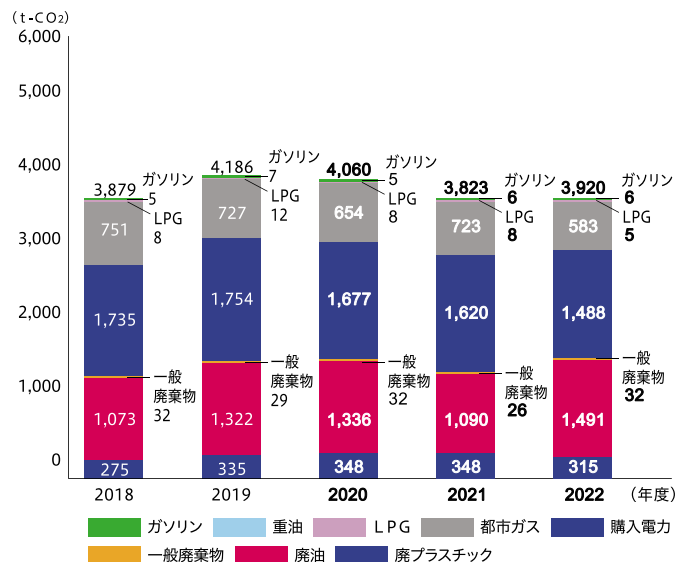


## エネルギー別CO<sub>2</sub>排出量

稲沢工場の2022年度におけるCO<sub>2</sub>排出量のエネルギー別内訳を見ると、電力使用にともなうCO<sub>2</sub>が1,488t、廃油由来のCO<sub>2</sub>が1,491t、都市ガスの燃焼によるCO<sub>2</sub>が583t、廃プラスチックによる315tのCO<sub>2</sub>が排出されています。

シヤチハタでは外部に最終処分を委託している一般廃棄物や産業廃棄物（廃油、廃プラスチック）の焼却によって排出すると思われるCO<sub>2</sub>排出量も把握。その削減はシヤチハタの責務であると認識し、取組みを進めています。

エネルギー別CO<sub>2</sub>排出量一覧（稲沢工場）



## 地球温暖化防止

シヤチハタでは、生産部門、間接部門をあげて、地球温暖化防止を推進。  
地球温暖化防止に向けて、できることから着実に実行していこうとしています。

### CO<sub>2</sub>フリー電気の調達開始



2021年10月から稲沢工場では「CO<sub>2</sub>フリー電気」の調達を始めました。  
工場で使用する電気の一部を、CO<sub>2</sub>フリー電気に置き換えることとなります。

CO<sub>2</sub>フリー電気とは、水力・風力・太陽光などの再生可能エネルギー発電によって作られた電気を、電力会社がCO<sub>2</sub>フリーという価値を付けて販売する制度のことです。電力単価は通常より高くなりますが、その代わりにCO<sub>2</sub>フリー電気を調達した企業は、調達した電力量に相当するCO<sub>2</sub>の排出量をゼロとしてCO<sub>2</sub>排出量を算定し、国への報告に使用することができます。結果として企業のCO<sub>2</sub>排出量を減らすことができるのが、この制度のメリットです。

日本のCO<sub>2</sub>削減目標は、2030年には2013年度比で46%減、2050年にはCO<sub>2</sub>排出実質ゼロ（カーボンニュートラル）となっています。

国のCO<sub>2</sub>削減目標に近づけるべく、稲沢工場でもCO<sub>2</sub>排出量を削減するという目標を掲げており、CO<sub>2</sub>フリー電気調達は目標実現の為の第一歩となります。

### シヤチハタテクノ さいたま工場の取組み

2022年12月レーザー加工機への切替えが完了し、チラーは使わなくなり、コンプレッサーの稼働少なくなりました。これにより1万kWh/月の電力削減、年間60t程度のCO<sub>2</sub>削減となり、前年度と比較して10万kWh削減となりました。



### GX促進に向けたカーボンフットプリントの製品別算定ルール策定事業への参加

シヤチハタは、2023年(令和5年)度経済産業省が実施する「GX 促進に向けたカーボンフットプリントの製品別算定ルール策定支援事業」への参加を決定いたしました。本事業では、サプライチェーン全体の排出量削減に貢献する先進事例の創出を目指し、文具業界で統一された製品別算定ルールの確立を目指しています。



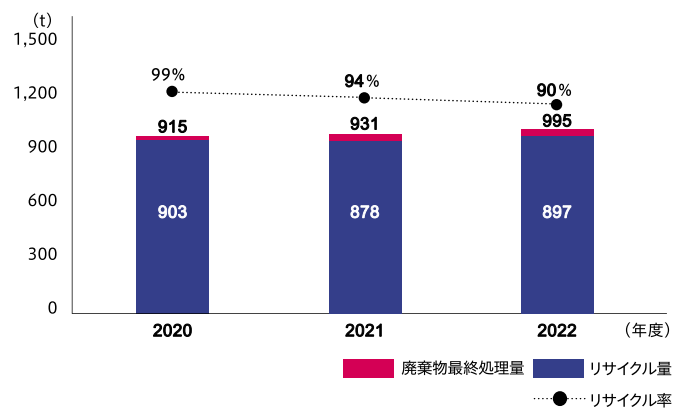
# 循環型生産システムを構築し、 ゼロエミッションを実現します。

シヤチハタでは、「循環型社会形成推進基本計画」にあるように、廃棄物等の適正な循環的な利用や処分を推進するため、1.廃棄物等の発生抑制、2.再使用、3.再生利用、4.熱回収、5.適正処分を進めています。  
 稲沢工場では、廃棄物の分別促進による排出削減を図り、再使用、再生利用、熱回収など廃棄物の再資源化を高める取り組みを推進しています。

## 廃棄物排出量

2022年度における稲沢工場の廃棄物総排出量は995tで2021年度より64t増加しました。これは2022年度の稲沢工場における排出量増加に伴うものです。このような現状に対して積極的な資源化の推進と自然界への還元への推進により、最終処分の抑制に努めてまいります。

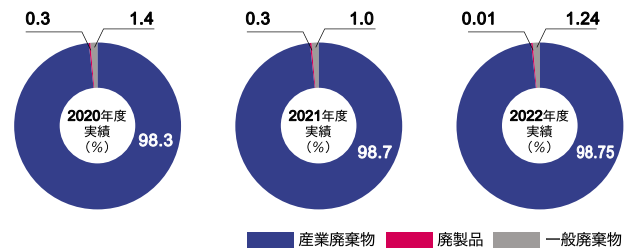
廃棄物排出量の推移 (稲沢工場)



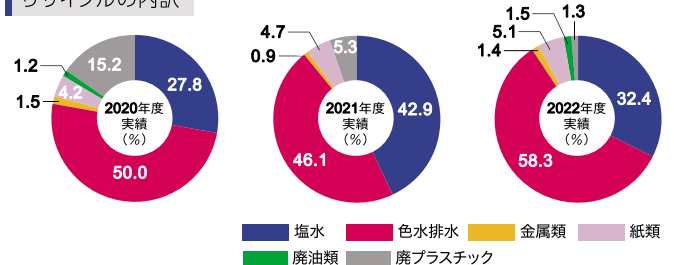
## リサイクル

シヤチハタでは、ゼロエミッションの達成をめざし、社内社外のリサイクルシステムの整備を推進してきました。とくに稲沢工場の廃棄物総排出量の77%を占める塩水・色水のリサイクルを完備しているため、2022年度には総リサイクル率90%を達成しました。今後も廃棄物処理業者の協力を得て、廃プラスチックや廃ゴム、廃製品のリサイクル実施を目指し、高リサイクル率の維持に努めてまいります。

廃棄物の内訳



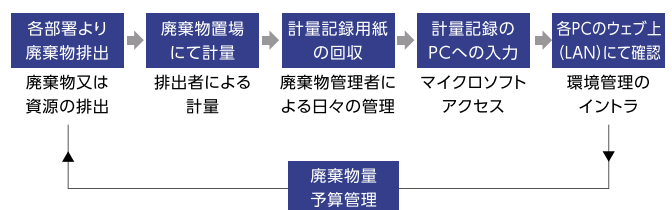
リサイクルの内訳



## 廃棄物管理システム

廃棄物の発生を抑制し、リサイクル率を高めるには廃棄物管理システムの構築が不可欠です。シヤチハタでは稲沢工場内で発生する廃棄物をリアルタイムで把握する管理システムを導入しています。この為廃棄物の排出状況を関係者がいつでもイントラネット上でチェックできます。

廃棄物管理システムフロー (稲沢工場)



海洋プラスチックごみ問題は、海洋の生態系に悪影響を与えるほか、人の健康にも影響を及ぼしかねない喫緊の課題です。事業活動を通じてプラスチック削減に取り組んでいます。

### プラスチック使用「文具・事務用品」設計ガイドラインの策定

2022年4月に施行されたプラスチック資源循環促進法では、プラスチックの資源循環を促進するために「プラスチック使用製品設計指針」が定められています。「業界団体等における製品分野ごとの設計の標準化や設計のガイドライン等の策定」は、同指針の定めでは、プラスチック使用製品製造事業者等が取り組むべき事項及び配慮すべき事項として同指針が定める事項の一つとなっています。

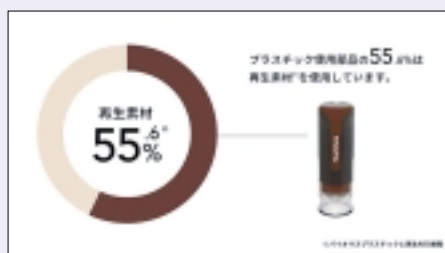
■プラスチック使用製品の設計に当たって、プラスチック使用製品製造事業者等が取り組むべき事項及び配慮すべき事項

- (1) 構造（減量化、包装の簡素化、長期使用・長寿命化等）
- (2) 材料（プラスチック以外の素材への代替、再生利用が容易な材料の使用等）
- (3) 製品のライフサイクル評価
- (4) 情報発信及び体制の整備
- (5) 関係者との連携
- (6) 製品分野ごとの設計の標準化並びに設計のガイドライン等の策定及び遵守
  - ・業界団体等における製品分野ごとの設計の標準化や設計のガイドライン等の策定を実施すること
  - ・業界団体等における製品分野ごとの設計の標準化や設計のガイドライン等の策定が実施されている場合には、当該ガイドライン等を遵守するよう努めること

シャチハタは一般社団法人全日本文具協会主催の「プラ使用製品設計ガイドライン策定部会」に参加しています。一般社団法人全日本文具協会はプラスチック資源循環促進法への対応として、プラスチック使用「文具・事務用品」設計ガイドラインを策定し、公開いたしました。

### 廃棄素材を利用したサステナブルな「キャップレス9 バイオマスプラスチック」

世界中で注目されている「サステナブル」という取り組み。シャチハタでも環境配慮をテーマに、ロングセラー商品である「キャップレス9」を、廃棄素材を再利用したバイオマスプラスチックを配合して発売します。従来のキャップレス9の性能をそのままに、商品化を実現しました。



# 社会から、お客様から、 そして社員から信頼される企業として。

企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility)が、国内でも海外でも重要視されるようになってきました。経済的な側面、環境的な側面、そして社会的側面において、企業は確かな責任を果たすことが求められているのです。シャチハタでは、環境に配慮されたモノづくりをベースに、社会から、お客様から、そして社員から信頼される企業活動を展開していきます。

## 「ミナミメダカを守ろう」絶滅危惧種の保全活動

「ピオトープながおか」は、稲沢市祖父江町にあるミナミメダカが生息するピオトープです。このピオトープは、木曾川からの農業用水を注水した際にメダカが自然に入りこんで定着し、現在では数千匹以上のメダカが生息している場所です。

このピオトープの環境整備を行っているのが、市民活動団体の「Longhill Net(ロングヒルネット)」です。

会員7名で構成されるこの団体は、ピオトープの注水管理や除草作業などの環境整備を行うと共に、環境学習の一環として「メダカ里親事業」を行っています。また毎年8月には「ピオトープ生きものしらべ」を開催し、地域の人々に生物多様性保全に取り組む機会を提供しています。

シャチハタは2019年から、ピオトープながおかの環境整備活動や「ピオトープ生きものしらべ」にボランティアとして参加しています。参加のきっかけは、愛知県の環境局自然環境課が主催する「生物多様性マッチングシート」という仕組みでした。県の仲介によって、地域の活動団体と企業・学校・行政とをつなげるこの仕組みを利用することで、会社の身近で行われている生物多様性保全活動に協力することができました。

ピオトープながおかの活動は2020年の「あいち・なごや生物多様性グッドプラクティス」の1つに選定され、稲沢市長による活動視察を受けるなど、地域に根差した生物多様性保全活動として認知されました。地域貢献活動として、今後も活動を続けていきます。

## あいち・なごや生物多様性グッドプラクティス

当社の品質保証部が参画している「ピオトープながおか」が、「あいち・なごや生物多様性グッドプラクティス」選定団体として表彰されました。稲沢市のピオトープを活用して行っている、ピオトープの整備や希少種の保全などの取り組みが高く評価されたものです。



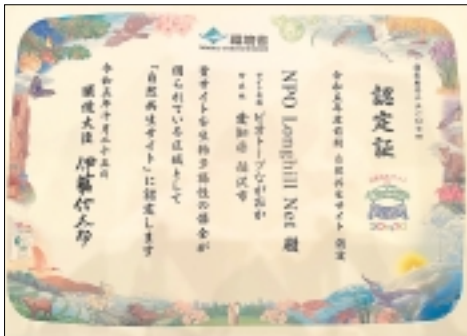
## ビオトープながおか 自然共生サイト認定取得

当社が参画している「ビオトープながおか」が、環境省より「自然共生サイト」の認定を取得致しました。稲沢市のビオトープを活用して行っている、ビオトープの整備や希少種の保全などの取り組みが高く評価されたものです。現在NPOロングヒルネット様と協力して生物多様性保全活動に取り組んでいます。

「自然共生サイト」は、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を国が認定する制度のことで、2021年6月のG7サミットで合意された「2030年自然協約」に基づく、日本における30 by 30取組みの一環です。

この認定制度は今年度スタートした制度で、最初の自然共生サイトの一つとして認定されました。

今後も連携での取組みを継続し、質の高いビオトープづくりで生態系ネットワークの一端を担いながら、稲沢市の生物多様性向上を目指し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



## あいち生物多様性企業に認証されました！

この度、シャチハタは、あいち生物多様性認証企業に認証されました。

愛知県で2021年に創設された「あいち生物多様性企業認証制度」は、生物多様性保全の施策の方向性を示す戦略（「あいち生物多様性戦略2020」及び「あいち生物多様性戦略2030」）に基づいた、企業の保全活動への参画を促すインセンティブとして優良な取り組みをしている企業を愛知県が認証する制度です。

認証された理由となる当社の主な取り組みとしては、2019年から稲沢市のNPO法人ロングヒルネットと連携し、ビオトープながおか（稲沢市祖父江町）に生息する希少種のミナミメダカの保全活動を行っています。また、行政（江南市、大口町）や他企業（リンナイ様、東海理化様など）と連携して外来種のオオキンケイギクの駆除活動も行っています。

今後も持続可能な社会の実現に向けて、環境保全活動を推進していきます。





# 化学物質の管理をはじめとして、 大気や水など地域の環境を守ります。

国内・国外を問わず、自然環境や人の健康に影響を与えうる有害な化学物質に関する関心はますます高まっています。日本やEU、アメリカをはじめとして、有害な化学物質の管理や使用に関する法規則が整備されてきましたが、シャチハタでもPRTR法\*の遵守をはじめ、化学物質管理に積極的に取り組んでいます。

※「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」

## PRTR法への対応

シャチハタでは「有害な化学物質はできるだけ使用しない」、「可能な限り削減・代替に努める」ことを基本方針として活動して参りました。

2009年度にはシャチハタTATのインキ配合を全面的に見直しリニューアルを図り、またXスタンパーゴムに使用されている可塑剤の変更を完了しました。2022年度はすべての化学物質の取扱い量が1tを下回り、PRTR法の届出が不要となりました。

### 化学物質の排出・移動量

物質名		パイロット調査 (2000年9月)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
エチレングリコール モノメチルエーテル	年間取扱い量(kg)	3,299.6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
	排出・移動量(kg)	59.6	—	—	—	—
エチレングリコール モノエチルエーテル	年間取扱い量(kg)	6,591.6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
	排出・移動量(kg)	310	—	—	—	—
フタル酸 ジ-n-ブチル	年間取扱い量(kg)	2,053.6	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
	排出・移動量(kg)	1,203.6	—	—	—	—
キシレン	年間取扱い量(kg)	—	(274.0)	(290.5)	(381.0)	(280.8)
	排出・移動量(kg)	—	—	—	—	—

※( )は届出不要 —:取扱・排出・移動量 1t以下

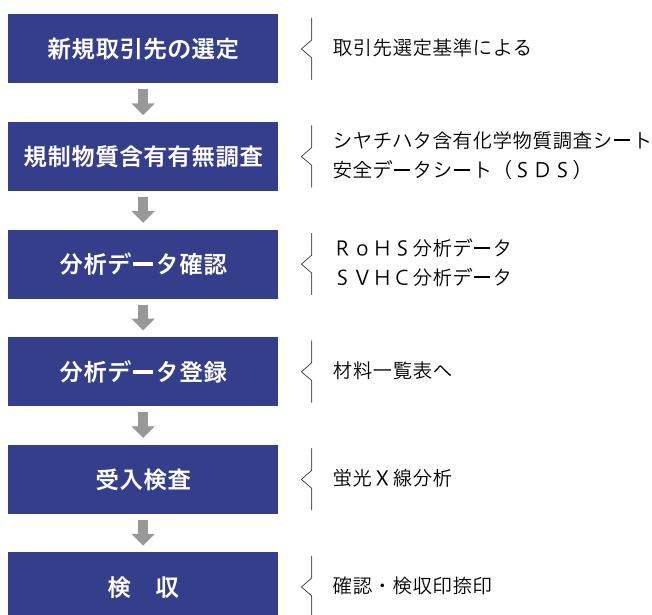
## 化学物質管理システムの推進

製品には性能向上や品質確保のため化学物質が使われています。しかし、一部の物質は製品の使用・廃棄段階で環境に悪影響を及ぼす恐れがあることから、各国・各地域で規制がなされています。シャチハタグループでは、これらの化学物質の厳格な管理と継続的な削減を図るため、「品質保証部」に分析センターを設置しています。取引先各社と連携しながら、「シャチハタグリーン調達システム」を使用して、化学物質のデータ管理、代替物質への切り替えを促進しています。

2019年度以降は、ヨーロッパ「RoHS指令」の原則使用禁止特定10物質\*1への対応を全工場に継続しております。すべての調達先に対して、部品を構成する材料・副資材に含まれる特定化学物質の調査を要請するとともに、監査を実施しています。このようなサプライチェーンでの混入防止システムを構築することで、特定化学物質非含有の保証体制を確立しています。

\*1:カドミウム、鉛、水銀、六価クロム、ポリ臭化ビフェニル、ポリ臭化ジフェニルエーテル  
フタル酸ジエチルヘキシル、フタル酸ジブチル、フタル酸ブチルベンジル  
フタル酸ジイソブチル

### 購入材料化学物質管理フロー (例)





# シヤチハタは、 ISO/IEC 17025 (試験所) に認定されました。

## ISO/IEC 17025 (試験所)

ISO/IEC17025は、試験結果を得る際の試験又は校正に関する国際的に認定する為の基準となる規格であり、試験機関が対象となる測定項目について、技術管理、品質管理及び技術的に妥当な証明を行うといった全ての要求事項をクリアしなければなりません。

ISO/IEC17025認定項目については報告書にISO/IEC17025認定機関(日本適合性認定協会)及びILAC-MRA(国際試験所認定協力機構及び国際相互承認協定)のロゴマークを記載できます。アメリカ、ヨーロッパ、アジア等広い地域で採用されており、国際的にも通用する検査証明書となります。

シヤチハタではRoHS指令で規制されている特定有害物質(カドミウム、鉛、水銀、六価クロム、PBB、PBDE、DEHP、BBP、DBPおよびDIBPの10物質)の分析においてISO/IEC17025(試験所)を取得し、それら特定有害物質を社内で管理することができるようになりました。

※PBB、PBDE：臭素系難燃剤

※DEHP、BBP、DBP、DIBP：フタル酸エステル



# 調達・物流段階での環境負荷低減に取り組んでいます。

稲沢工場における生産活動で使用する原材料の購入にあたっては、再生品の利用を推進しています。製品の発送にあたっては、他社製品との混載により、輸送時の環境負荷低減をめざしています。また、本社をはじめ間接部門ではグリーン購入法適合商品の購入を推奨しています。

## グリーン物流

製品の輸送・納品においては、中日本物流センター(愛知県一宮市)と東日本物流センター(埼玉県さいたま市)にロジスティック機能を集約し、発注業務の簡略化、帳票処理能力の向上、出荷・納品の迅速化、適正在庫管理システムの運用などにより、効率化を図っています。また、シヤチハタの製品はほとんどが小ロットのものであるため、出荷にあたっては混載によって輸送効率向上を追及しています。



## グリーン調達

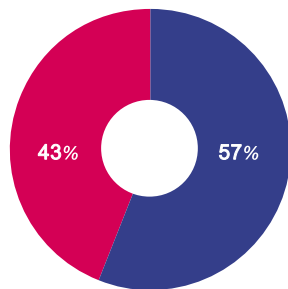
2022年度、稲沢工場においては、原料用のプラスチックと洗浄用のイソプロピルアルコールの再生品の購入を積極的に推進しました。

原料用のプラスチックは274t購入しましたが、うち156tが再生材で、再生材利用率は57%でした。

洗浄用アルコールの全量を再生材料とし、再生材利用率は100%でした。今後とも原材料の購入にあたっては、積極的に再生材を用いていきます。

再生材利用率 (2022年度)

プラスチック



■ 再生材 ■ バージン材

## 低公害車の導入

シヤチハタでは、社有車の更新にあたっては低公害車の導入を積極的に進めています。2022年度末においては、全101台中100台が低公害車で、導入率は99%でした。

低公害車保有台数：100台 (車両保有台数：101台)

H17年 基準適合	0台
H17年 規制75%減	72台
H17年 規制50%減	1台
H17年 規制10%減	1台
H19年 規制75%減	0台
H30年 規制75%減	22台
H30年 基準適合	4台
合計 (101台中)	100台

## 透明で信頼性のある情報を公開し、 広く、環境コミュニケーションを推進しています。

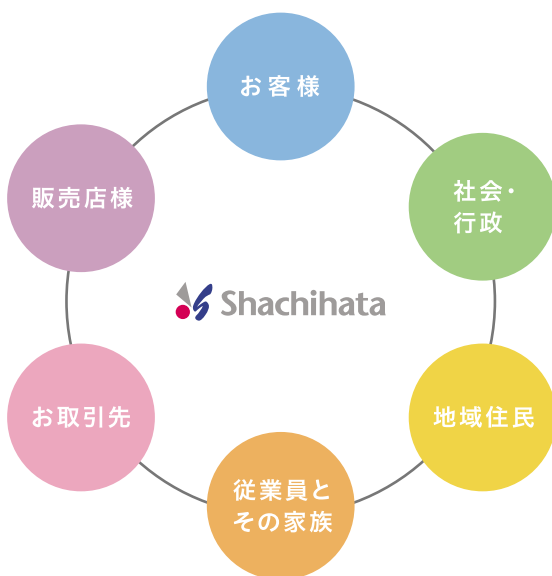
さまざまなステークホルダーの皆様と、多様な機会を通して、環境コミュニケーションの充実を図っています。また、地域環境の美化活動や学校における環境教育への協力といった社会貢献活動を行うことで、社会全体の環境意識の向上にも貢献します。

### 環境・エネルギー教育支援活動

シヤチハタは、幅広い世代に環境問題に対する意識を高めていただくため、一般消費者の方々を対象とした「環境・エネルギー教育研修会」や、子どもたちを対象とした「環境・エネルギー講座」の実施に協力しています。今後も、次世代教育に関わる方々と連携をとりつつ、地域の特性に応じた効果的な環境・エネルギー教育支援活動を進めていきます。

ステークホルダーの皆様との“関係”を  
大切にしながら、企業活動を続けていきます。

創業以来、さまざまなステークホルダーの皆様を支えられて、今日の私たちが成り立っています。これからも法的要求事項を順守することはもちろん、皆様のニーズと期待に応えられる企業を目指します。



アンケートなどにより、ステークホルダーの理解及び要望・期待などに配慮しています。

また日常業務での対話を重視し、コミュニケーションの推進を図っています。

### NPO・NGOとの連携

～グリーン購入ネットワーク(GPN)との協働～

GPNは、グリーン購入の普及を目的とした約3,000の会員団体で構成される日本最大級の環境団体で、シヤチハタでは、「グリーン購入法(文具類)の手引」策定に協力するほか、同団体のグリーン購入一斉行動キャンペーンなどにも協力・参加しています。

### 全日本文具協会「SDGs推進委員会」への参画

2019年7月より、一般社団法人 全日本文具協会主催の「SDGs推進委員会」に参加しています。

SDGs推進委員会は、世界の共通課題を視野に経済・環境・社会の諸課題を解決する新たな製品・サービスを創出し、社会の包摂的な成長に文具業界として貢献するため、2019年6月に発足しました。同年7月、参加企業16社により活動がスタートし、各社のSDGs関連の取り組みの共有、SDGsカードゲーム、有識者の講演などを通じて、SDGsの理解を深めることからはじめ、その後「SDGs17目標・169ターゲット・232指標」の中で、文具業界として貢献できる可能性の高い目標、指標の協議を進めています。



発行部署 シヤチハタ株式会社 品質保証部 TEL.0587-24-5817 FAX.0587-24-6437

本 社	〒451-0021	名古屋市西区天塚町4-69	TEL 052-521-3635(代)	FAX 052-521-3756
札 幌	〒060-0007	札幌市中央区北7条西19-38-51	TEL 011-640-5900(代)	FAX 011-640-5904
仙 台	〒980-0065	仙台市青葉区土樋1-10-17	TEL 022-223-2155(代)	FAX 022-223-2159
東 京	〒103-0013	東京都中央区日本橋人形町2-26-5 NX人形ビル9階	TEL 03-3663-9641(代)	FAX 03-3669-7168
名 古 屋	〒451-0021	名古屋市西区天塚町4-69	TEL 052-856-3541(代)	FAX 052-856-3437
大 阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2-5-8 インターワンプレイス長堀9階	TEL 06-6262-4951(代)	FAX 06-6262-4982
広 島	〒730-0037	広島市中区中町8-12 広島グリーンビル2階	TEL 082-535-2500(代)	FAX 082-535-2501
福 岡	〒815-0082	福岡市南区大楠3-19-22	TEL 092-522-3871(代)	FAX 092-522-3878

シヤチハタ株式会社 [www.shachihata.co.jp](http://www.shachihata.co.jp)

○掲載商品は、改良のため予告なく仕様を変更する場合がございます。○掲載商品は、実物と多少異なる場合がございます。

2023年12月現在

環境報告書2022 D2021.10(1T)1 ①

